

「仙台市学校教育情報化推進計画」「仙台市学校教育情報化推進計画行動計画」に基づく取組 と今後の方向性について

2023.11.29

第2回仙台市GIGAスクール推進協議会



仙台市教育委員会

第1回協議会でいただいた主なご意見と行動計画の進捗

1. 児童生徒の情報活用能力育成に関すること

- (1) 1人1台端末の活用
- (2) 高校における取組
- (3) STEAM教育、プログラミング教育の推進

2. 教員のICT指導力向上に関すること

- (1) 教員のICT指導力向上
- (2) 教育センターの実践研究
- (3) 教員の業務効率化

3. 部会の取組について

- (1) 教育の情報化推進部会の取組
- (2) 家庭の情報モラル推進部会の取組

4. 令和5年度 評価指標について

第1回協議会でいただいた主なご意見と行動計画の進捗

1. 児童生徒の情報活用能力育成に関すること

- (1) 1人1台端末の活用
- (2) 高校における取組
- (3) STEAM教育、プログラミング教育の推進

2. 教員のICT指導力向上に関すること

- (1) 教員のICT指導力向上
- (2) 教育センターの実践研究
- (3) 教員の業務効率化

3. 部会の取組について

- (1) 教育の情報化推進部会の取組
- (2) 家庭の情報モラル推進部会の取組

4. 令和5年度 評価指標について

第1回協議会でいただいた主なご意見と行動計画の進捗

1. 児童生徒の情報活用能力育成に関すること

(1) 1人1台端末の活用

【第1回協議会でのご意見】

- 端末活用目標値の到達状況と実施状況の乖離を定量的に把握することで、現状維持で良いか、取り組みを加速するべきかなどの検討ができる。
- 教員の主観に基づくアンケート以外に、ログなど客観的なデータに基づき端末活用率を把握することが望ましい。

【進捗・対応状況】

- 端末活用目標は、小学校低学年は1日1～3回程度、中学年は1日2回以上、高学年は1日3回以上、中学校等は全学年1日3回以上を活用目標として定めており、今回から実施状況との乖離も含めて報告させていただきます。
- ログイン回数などの情報は把握できますが、実際の授業での活用を把握することが難しいことから、教員に対するアンケート調査による授業での活用状況把握は継続する必要があると考えます。
- 客観的なデータによる端末活用率の把握については、どのような形で把握できるか委託事業者と検討を重ねてまいります。

◎令和5年度 端末活用状況について

- 1 週授業端末活用率等
- 2 端末の持ち帰り状況
- 3 デジタルドリル活用状況

◎第1回端末活用に関する悉皆調査

回答期間：令和5年9月～10月

対象：授業を担当する全教職員

回答数：4,817名（回答率100%）

小学校：2,672名 中学校：1,750名

高等学校：261名 中等教育学校：54名

特別支援学校：80名

回答内容：令和5年4～9月の端末活用状況

◎令和5年度 端末活用目標

小学校低学年	1日1～3回程度
小学校中学年	1日2回以上
小学校高学年	1日3回以上
中学校全学年	1日3回以上

小学校は1日約2回(目標活用率約33.3%)

中学校は1日約3回(目標活用率約50.0%)

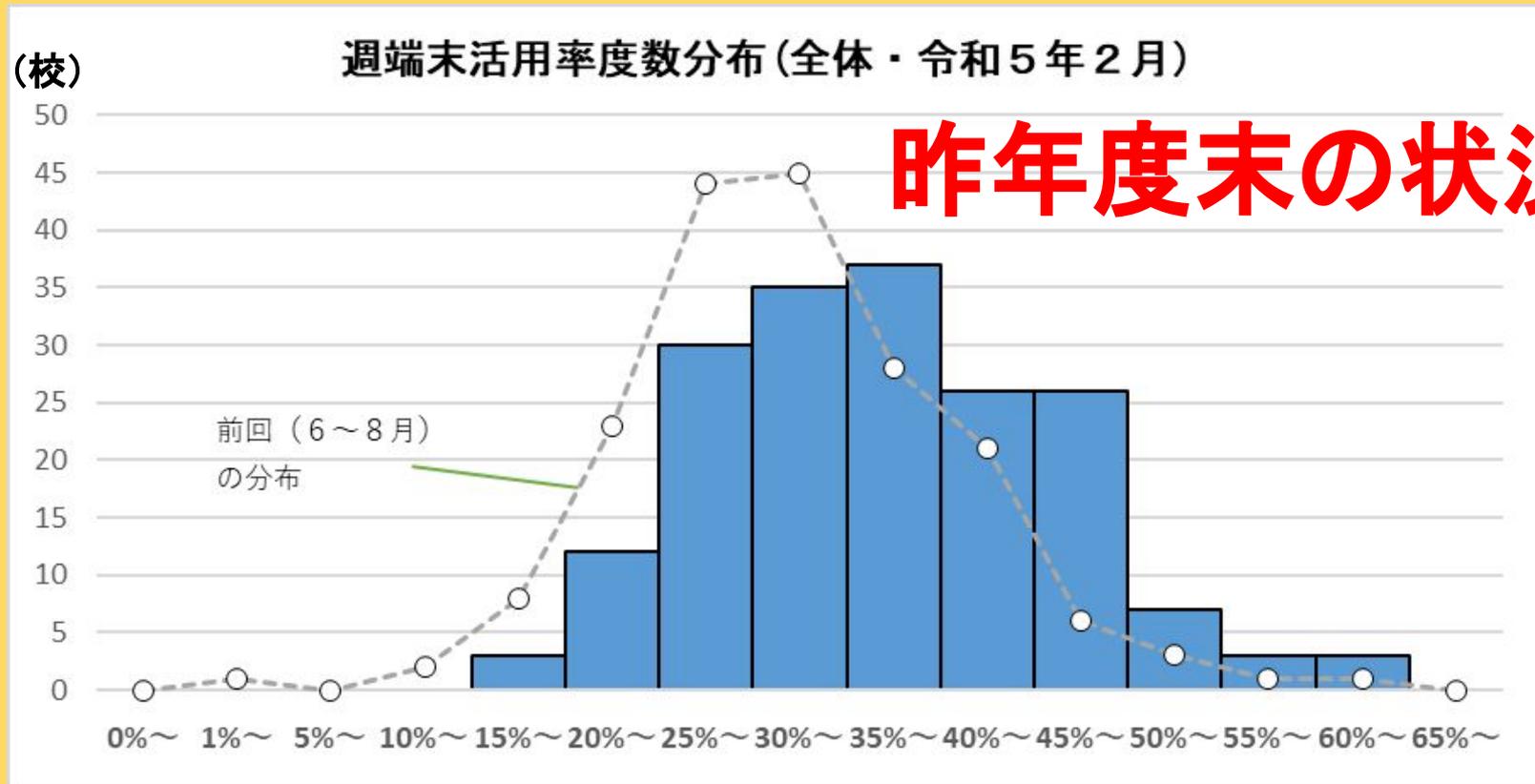
※あくまで授業のみの活用に限定した活用率になります

授業での週端末活用率（校種別）



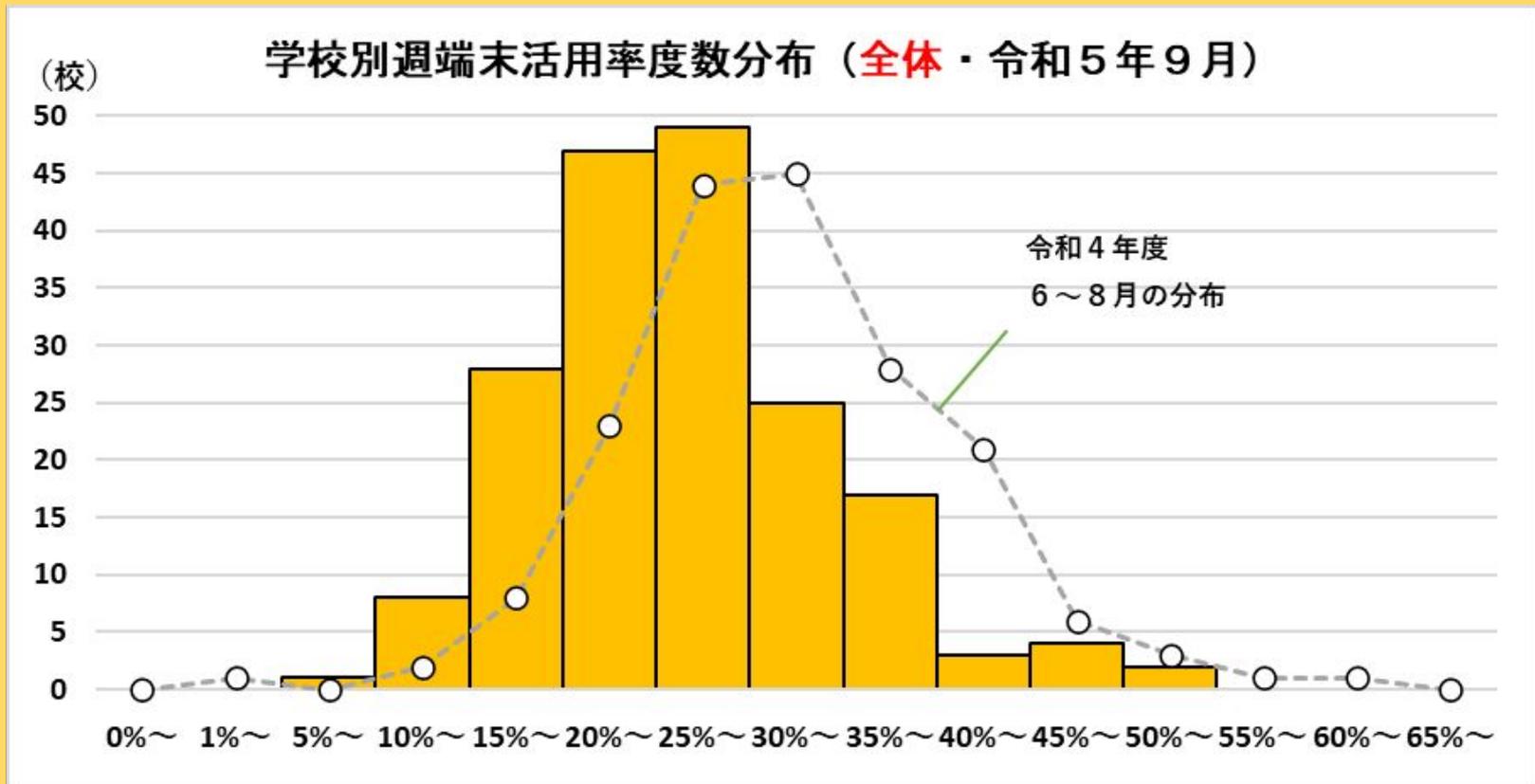
※1人1人の活用率をもとに全体または校種ごとの活用率を算出し、グラフにしています。

令和5年度 端末活用状況について



※1人1人の活用率をもとに学校ごとの活用率を算出し、散らばり具合をグラフにしています。

令和5年度 端末活用状況について



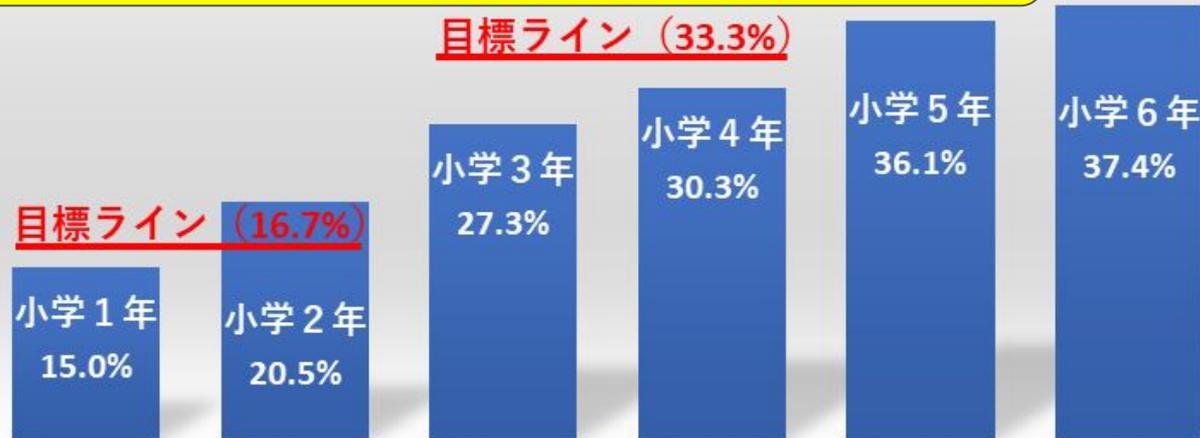
※1人1人の活用率をもとに学校ごとの活用率を算出し、散らばり具合をグラフにしています。

授業での週端末活用率（小学校・学年ごと）

n=2,672

目標ライン（50.0%）

朝学習や家庭学習など、授業以外の活用を含めると、概ね
端末の活用は進んでいるものと認識しています



※1人1人の活用率をもとに学年ごとの活用率を算出し、グラフにしています。

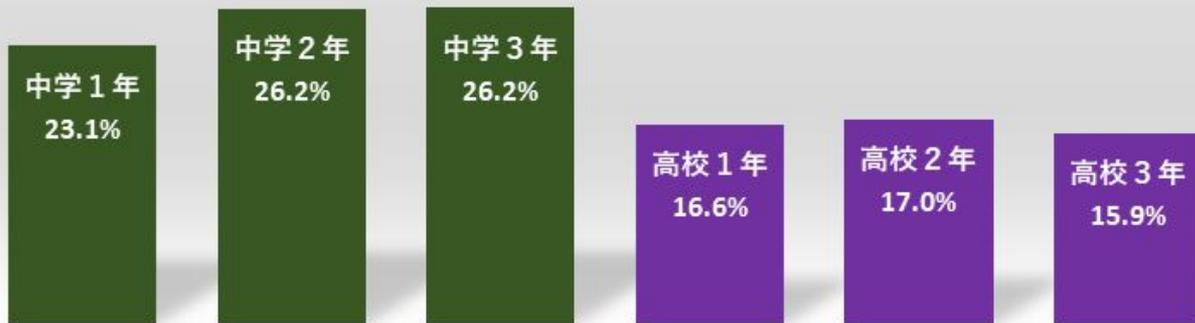
授業での週端末活用率 (中高・学年ごと)

目標ライン (50.0%)

朝学習や家庭学習など、授業以外の活用を含めると、概ね端末の活用は進んでいるものと認識しています

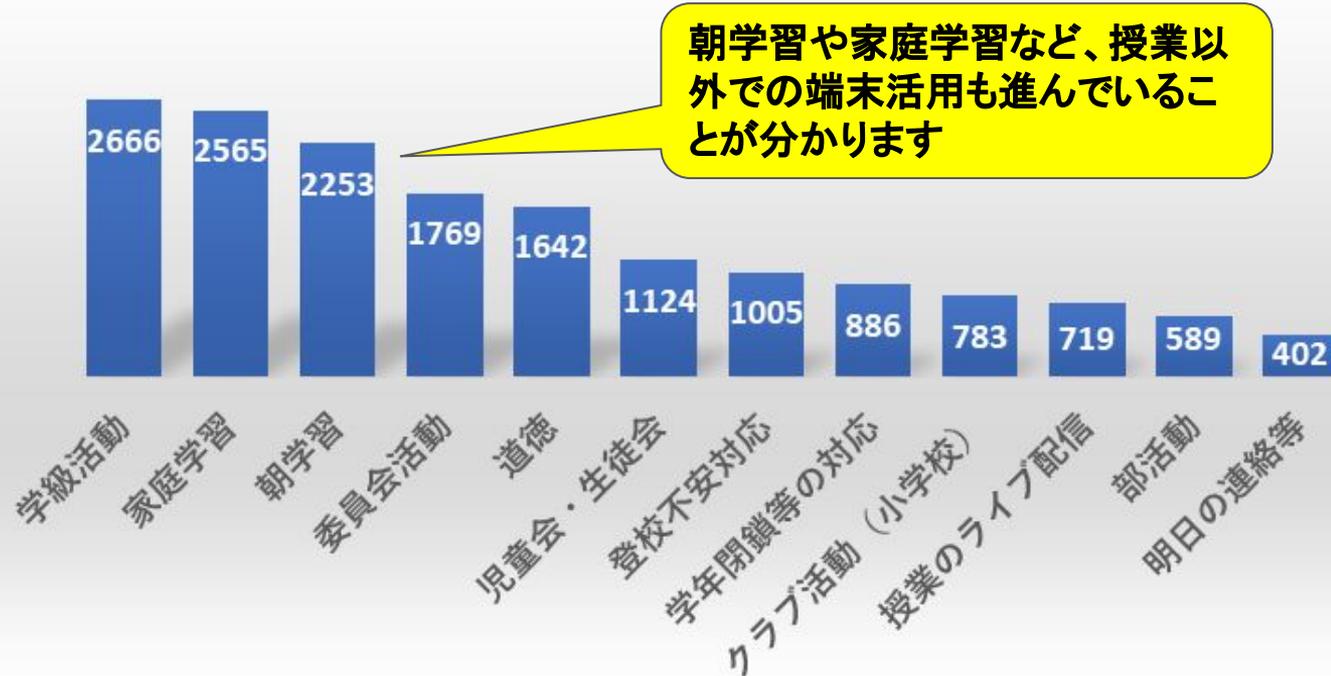
中学校 n=1,750

高等学校 n=261



※1人1人の活用率をもとに学年ごとの活用率を算出し、グラフにしています。

端末活用の場面（複数回答）



第1回協議会でいただいた主なご意見と行動計画の進捗

1. 児童生徒の情報活用能力育成に関すること

(2) 高校における取組

【第1回協議会でのご意見】

- 高校に対する取り組みを検討してほしい。
- 校種別の状況を把握することで、高校の状況を指標化するところから始めてはどうか。

【進捗・対応状況】

- 高校等における活用状況を把握するため、端末活用率等を校種別に集計し活用状況を把握しました。高校の全学年に1人1台端末が整備されて間もないことから、高校における目標値の設定や各高校の特殊性も踏まえた課題の把握を行っていきます。
- 今年度については、学校から要望が多い、端末利用時間、メールやWeb会議に関する制限について、高校生向けに利用時間や機能制限の見直しを検討しております。

◎端末持ち帰りに関する調査

回答期間：令和5年8月～9月

対象：市立小中学校・中等教育学校

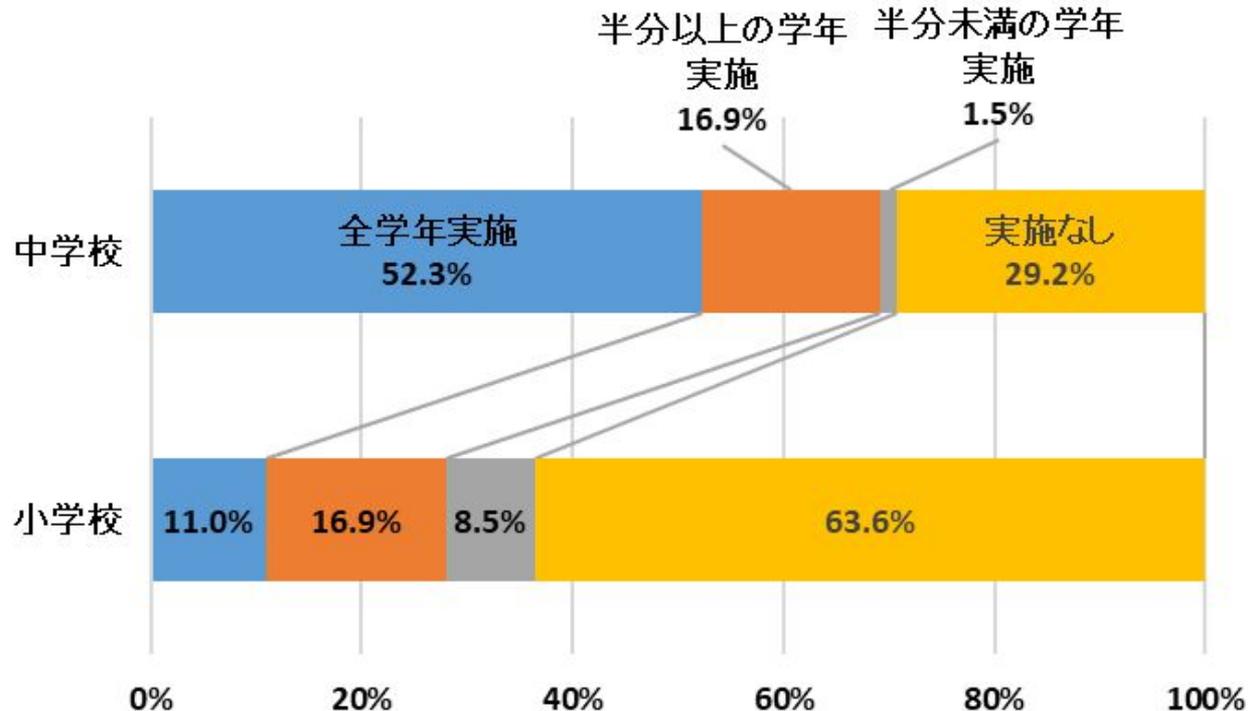
回答数：183校

小学校：118校、中学校：64校、
中等教育学校：1校

回答内容：夏休みと平常時の端末持ち帰り状況

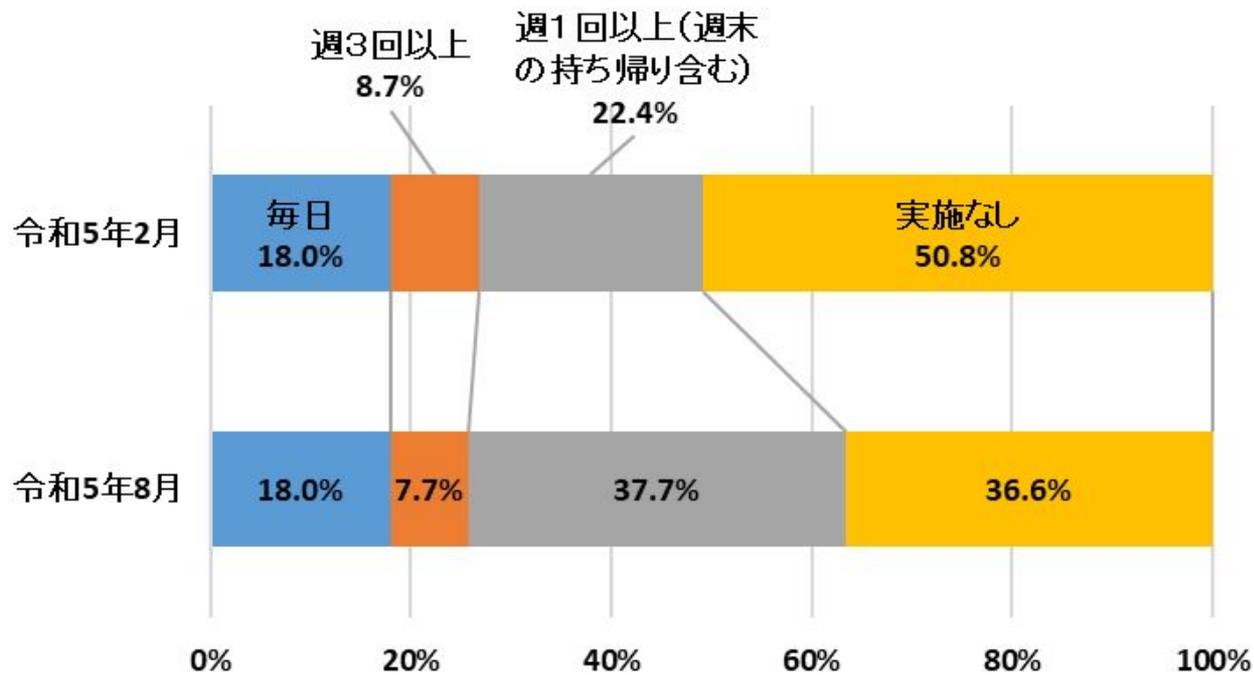
令和5年度 端末活用状況について

夏休みの端末持ち帰り状況について(令和5年8月)



令和5年度 端末活用状況について

平日の端末持ち帰り状況について(小中合計)



※2月の回答で「月1回以上」「月1回未満」「児童生徒の希望制」等については「実施なし」と分類しました。

第1回協議会でいただいた主なご意見と行動計画の進捗

1. 児童生徒の情報活用能力育成に関すること

(3) STEAM教育、プログラミング教育の推進

【第1回協議会でのご意見】

- STEAM教育は、カリキュラム・マネジメントの視点で教科横断的に進めること。また、AI等を理解するうえでもプログラミングは重要な知識であることから、STEAM教育の推進においてもプログラミング教育が含まれていることを明確にしていくこと。
- 昨年度のGIGAスクール協議会の「プログラミング・STEAM教育推進校」には、引き続き必要なフォローをすること。
- プログラミングに関する検定試験の活用について検討すること。

【進捗・対応状況】

- 「STEAM Lab実証事業」では、令和5年6月から 学校全体で研修会を開催するなど、教科横断的に進めるよう意識して取り組んでおります。また、教育センターの「授業づくり訪問」事業と協力し、STEAM教育及びプログラミング教育の視点を持ちながら取り組みを進めております。
- 「プログラミング・STEAM教育推進校」の取り組みは、「教育の情報化研究委員会 プログラミング部会」に引き継がれており、令和5年度も授業づくり等を支援してきました。令和5年10月には、新たにプログラミング教材を対象校に整備するなど、引き続き環境整備にも努めております。
- プログラミングに関する検定試験の活用を進めるため、モデルとなる受検校の選定に取り組んでおります。

第1回協議会でいただいた主なご意見と行動計画の進捗

1. 児童生徒の情報活用能力育成に関すること

- (1) 1人1台端末の活用
- (2) 高校における取組
- (3) STEAM教育、プログラミング教育の推進

2. 教員のICT指導力向上に関すること

- (1) 教員のICT指導力向上
- (2) 教育センターの実践研究
- (3) 教員の業務効率化

3. 部会の取組について

- (1) 教育の情報化推進部会の取組
- (2) 家庭の情報モラル推進部会の取組

4. 令和5年度 評価指標について

第1回協議会でいただいた主なご意見と行動計画の進捗

2. 教員のICT指導力向上に関すること

(1) 教員のICT指導力向上

【第1回協議会でのご意見】

- デジタルドリルの研修は、教員が受講しやすいようオンデマンド配信も必要である。
- 1割ほど端末を活用してない教員がいるので、全体の底上げを図ること。
-

【進捗・対応状況】

- デジタルドリルの研修は、令和5年6月よりオンデマンド配信を行いました。
- 端末活用に足踏みしていた学校も、少しずつ活用が進んできました。支援が必要な学校及び教員も見受けられるため、ICT支援員とも協力しながら引き続き全体の底上げに努めます。

◎デジタルドリルの実施状況

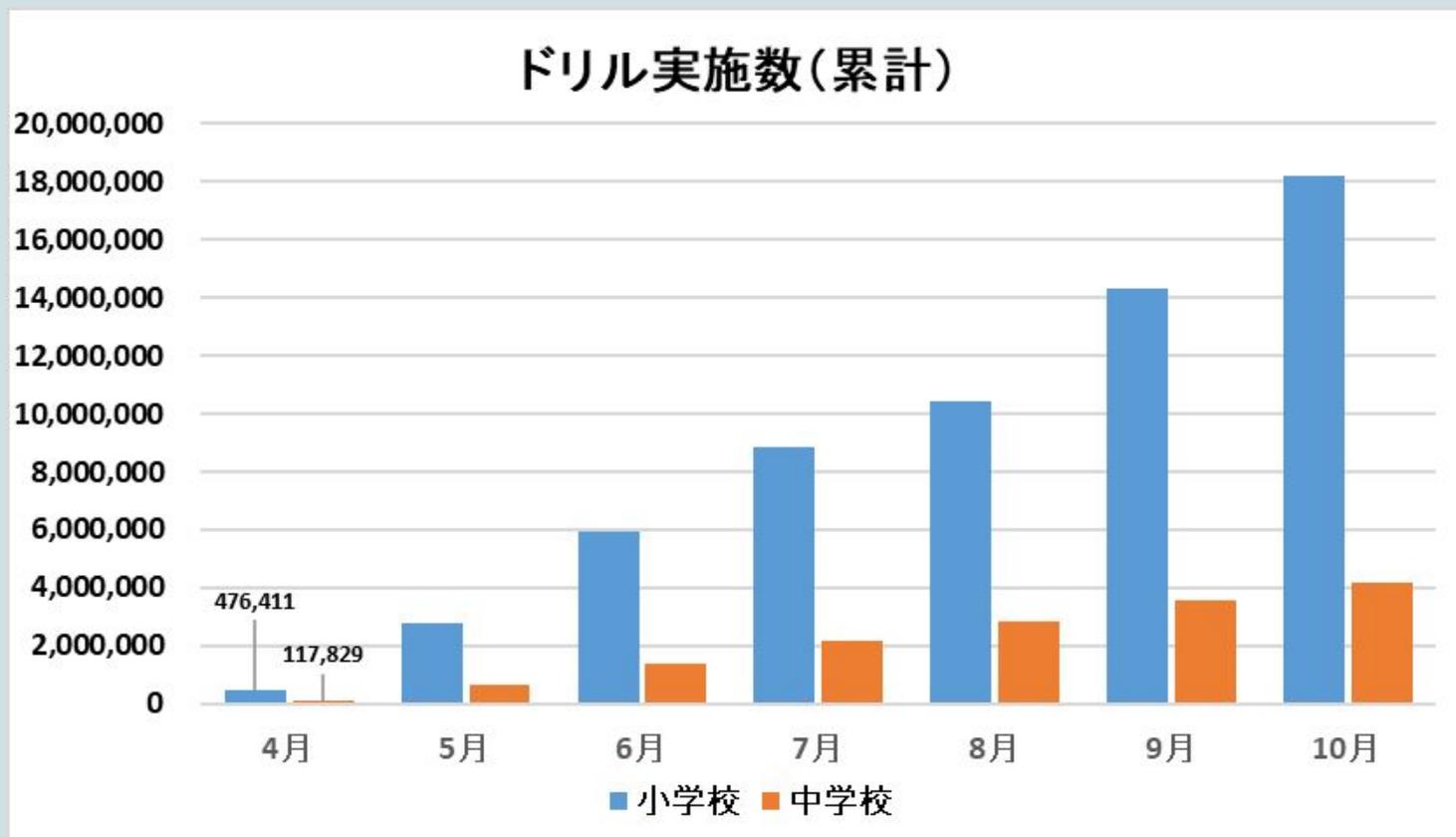
期間：令和5年4月～10月

対象：市立小中学校・中等教育学校

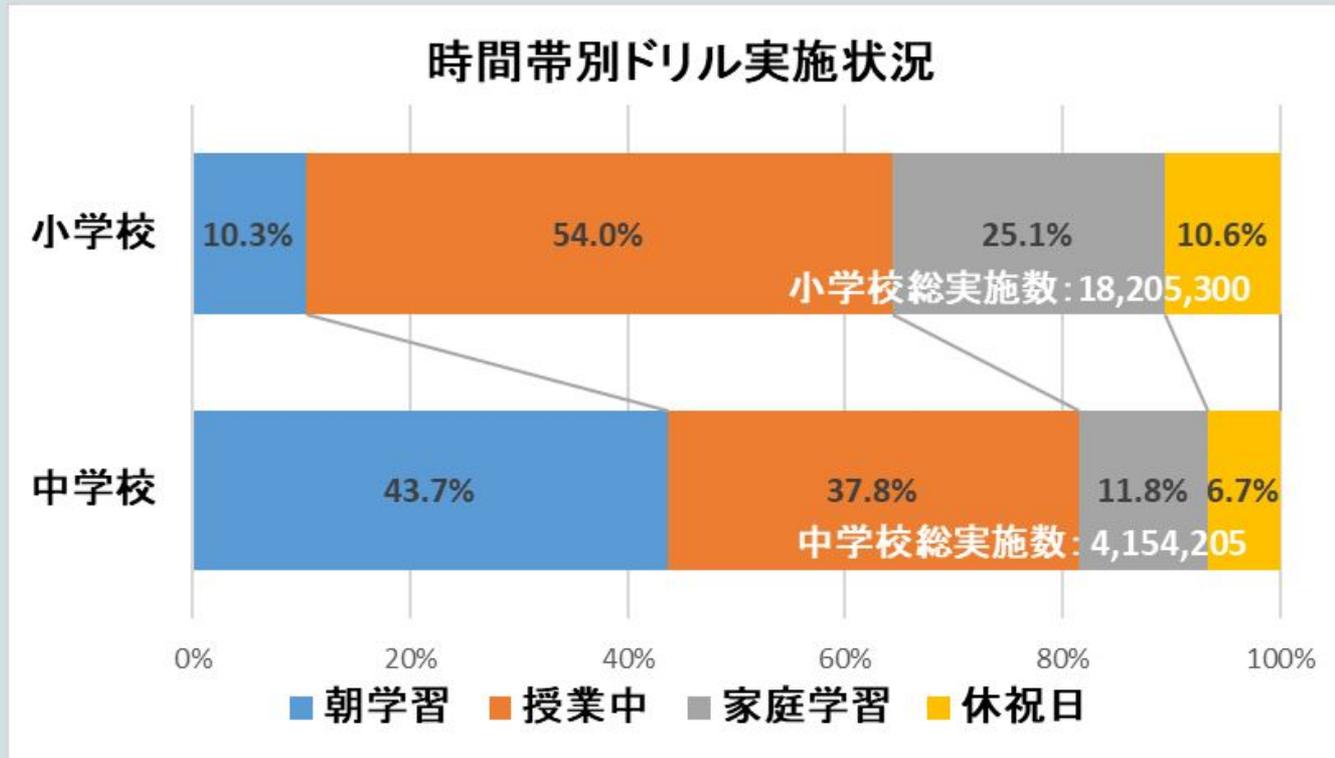
内容：①仙台市ドリル実施数（累計・校種別）

②一人あたりの平均ドリル実施数
他自治体との比較（月別・校種別）

令和5年度 端末活用状況について



令和5年度 端末活用状況について



※朝学習(8時台)、授業中(9～15時台)、家庭学習(16～翌7時台)
休祝日(カレンダー上の休祝日)

第1回協議会でいただいた主なご意見と行動計画の進捗

2. 教員のICT指導力向上に関すること

(1) 教員のICT指導力向上

【第1回協議会でのご意見】

- 研修は実施後のモニタリングが重要である。
- 教員が伸ばしたいスキルと対応するよう研修をマッピングし、研修を受ける動機付けにすること。
- 電子メールの送信ルールなど、教員の基本的な情報リテラシーも高めていく必要がある。
- 情報モラルだけではなく、情報セキュリティに関する研修の実施も必要である。

【進捗・対応状況】

- 文部科学省「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」を令和5年10月にとりまとめたことから、その結果を分析し、教員のスキル向上に繋がる効果的な研修となるよう内容を見直します。
- 令和6年度の研修資料では、スキルに対応するよう研修をマッピングした図を明示できるよう準備を進めています。
- 令和6年度に向けて、情報リテラシー研修は悉皆研修で、情報セキュリティー研修は新規創設又は年次研修のなかで実施を検討しています。

第1回協議会でいただいた主なご意見と行動計画の進捗

2. 教員のICT指導力向上に関すること

(2) 教育センターの実践研究

【第1回協議会でのご意見】

- 教育センターにて実施している「教育の情報化研究委員会」における研究成果を普及させる手法を検討してほしい。参集型の報告会についてもアーカイブ配信が必要である。
- 教育の情報化研究委員会には、先を見据えた研究テーマの設定があると良い。STEAM教育や生成AIなどを研究する部会の設置を検討すること。

【進捗・対応状況】

- これまで前年度の研究委員を講師に招いたり、研究発表会をオンデマンドで公開するなど、研究成果の普及に努めてまいります。今年度は参集型で各学校の教員に対して発表会を開催するとともに、その様子を録画し、全国に向けて公開しています。
- STEAMは「教育の情報化研究委員会 プログラミング教育部会」で取り扱ってきたが、委員会のあり方について検討を進めながら、生成AIなどの新しい研究テーマを設定してまいります。

第1回協議会でいただいた主なご意見と行動計画の進捗

2. 教員のICT指導力向上に関すること

(3) 教員の業務効率化

【第1回協議会でのご意見】

- 働き方改革やDXが進まない中でやらなければならないことが増えている。教員が納得感ややりがいを感じて進められることが、GIGAスクールを推進するためには必要である。
- 業務効率化を進めるにあたっては、既存の仕事を止める、シンプルにするなど大きく変えていくことが重要である。
- 行動計画に示されているメニューが多く、学校が負担感を感じるため、自校の段階や重点化したい項目を学校で決めて取り組める内容にしていくこと。

【進捗・対応状況】

- 令和5年5月・10月開催の「GIGAスクール推進担当者研修」や令和5年6月開催の「校長研修」等の機会をとらえ、授業や校務における端末活用のメリットについて周知を図ってきました。
- 教育委員会全体でデジタルの活用や仕事の見直しにより現場の負担を減らす取組を進めています。
- 資料5「進捗管理表」をもとに、学校が取り組むことも整理しているが、令和6年度の行動計画では学校が取り組みやすい形となるよう見直しを行ってまいります。

第1回協議会でいただいた主なご意見と行動計画の進捗

1. 児童生徒の情報活用能力育成に関すること

- (1) 1人1台端末の活用
- (2) 高校における取組
- (3) STEAM教育、プログラミング教育の推進

2. 教員のICT指導力向上に関すること

- (1) 教員のICT指導力向上
- (2) 教育センターの実践研究
- (3) 教員の業務効率化

3. 部会の取組について

- (1) 教育の情報化推進部会の取組
- (2) 家庭の情報モラル推進部会の取組

4. 令和5年度 評価指標について

第1回協議会でいただいた主なご意見と行動計画の進捗

3. 部会の取組について

(1) 教育の情報化推進部会の取組

【第1回協議会でのご意見】

- リーディングDXスクール事業では、指導方法による子どもたちの変容を、学校のICT教育推進のプロセス、学びのプロセスとして広めて欲しい。
- 「STEAM Lab実証事業」の取組では、特別活動や放課後、部活動などにおける事例も挙げていただきたい。子どもたちに裁量を持たせて自由にすることで、先端的にどんどん来突き詰める子が必ず出てくる。あまり制限をかけずにどんどん伸ばすようなサポートがあると良い。

【進捗・対応状況】

- リーディングDXスクール事業においては、小学校は授業ベースで、中学校は教員が使うICTから生徒が使うICTに移行するための取組を進めてきました。
- 「STEAM Lab」においては、中学校は授業のほかにも、部活動等で自主的に活用しており、担任教員と協力しながら取り組ませ方を模索しています。小学校においても、特別活動で活用できるよう支援しております。

⇒詳細は、協議事項(2)①にてご説明させていただきます。

第1回協議会でいただいた主なご意見と行動計画の進捗

3. 部会の取組について

(2) 家庭の情報モラル推進部会の取組

【第1回協議会でのご意見】

- 授業参観の参加率が低いことも考えられるので、親と子が自宅で簡単な動画視聴とチェックテストを一緒に取り組むような課題を出すなど情報を届けたい対象にアプローチする方法に留意すること。
- 親と子で認識にギャップがあることを知るのは、情報モラルを考えるうえで大事なことである。
- 家庭の情報モラルのなかに、情報セキュリティ教育を合わせていく必要がある。

【進捗・対応状況】

- 令和5年6月及び8月に協議会を開催し、児童生徒が情報モラルを自分事として捉えられるような授業づくりを検討してきた。
- 令和5年10月3日には、小学校の高学年を対象に授業参観でモデル事業を実施した。保護者にも挙手等で授業参加する機会を設けることで、授業後には児童生徒が自分の生活の改善について考える機会となった。
- 今後も、保護者に情報を提供する方法や自分の子どものこととして考えて生活に生かす機会をどのように増やすことができるのか検討していく。

⇒詳細は、協議事項(2)②にてご説明させていただきます。

第1回協議会でいただいた主なご意見と行動計画の進捗

1. 児童生徒の情報活用能力育成に関すること

- (1) 1人1台端末の活用
- (2) 高校における取組
- (3) STEAM教育、プログラミング教育の推進

2. 教員のICT指導力向上に関すること

- (1) 教員のICT指導力向上
- (2) 教育センターの実践研究
- (3) 教員の業務効率化

3. 部会の取組について

- (1) 教育の情報化推進部会の取組
- (2) 家庭の情報モラル推進部会の取組

4. 令和5年度 評価指標について

1 児童生徒の情報活用能力の状況 「情報活用能力意識調査」結果より(平均)

※小3、小6、中3の児童生徒を対象に実施した意識調査の質問で
「とてもそう思う」「そう思う」と回答した割合(n=18,029)

項目	令和4年度	令和5年度全体	令和5年度小3	令和5年度小6	令和5年度中3	目標値(令和9年度)
A活動スキル	76.0%	76.5%(+0.5)	72.3%	74.5%	82.8%	概ね90%以上
B探究スキル	76.1%	76.6%(+0.5)	75.7%	71.2%	82.9%	概ね90%以上
Cプログラミング	63.9%	64.5%(+0.6)	62.2%	60.2%	71.2%	概ね90%以上
D情報モラル	85.7%	86.2%(+0.5)	83.4%	89.4%	85.9%	概ね100%

令和5年度 評価指標について

1 校種の連携を考慮したプログラミング教育の実施 ...年内に確認し、第3回にて報告

2 教員のICT活用指導力の状況

※文部科学省「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」の質問で「できる」「ややできる」と回答した割合(n=4,463)

項目	令和4年度	令和5年度	目標値(令和9年度)
A教材研究・指導の準備・評価・校務などのICTを活用する能力	85.8%	85.7%(▲0.1)	概ね90%以上
B授業にICTを活用して指導する能力	71.1%	74.7%(+3.6)	概ね90%以上
C児童生徒のICT活用を指導する能力	76.9%	79.1%(+2.2)	概ね90%以上
D情報活用の基盤となる知識や態度について指導する能力	88.6%	88.2%(▲0.4)	概ね90%以上

3 環境整備の効果状況...年内に確認し、第3回にて報告

4 仙台市の取組についての理解の状況
保護者の認知度... **80.1%(▲4.2ポイント)**

※今年度、対象範囲を大きく広げて全小中学校の保護者
(任意回答)とし、約20,000人の回答が得られた。

※仙台GIGAサポートサイト

<https://sites.google.com/g.sendai-c.ed.jp/giga/>

